

コロナ禍での委員会活動について 緊急アンケートを実施しました!

以下、アンケート結果をご覧ください。

広報委員長 益崎広樹

回答者（敬称略）

菌田貴充総合研究委員長、重野巨樹法教育推進委員長、
岩崎憲司消費者問題対策委員長、益崎広樹広報委員長、
安田健太郎研修委員長

Q1. コロナ禍での委員会開催方法

A1. (w e b会議) 総合研究委員会、法教育推進委員会、
消費者問題対策委員会、広報委員会、研修委員会

Q2. w e b会議の方法

A2. (Z oom) 総合研究委員会、法教育推進委員会、
消費者問題対策委員会、広報委員会、研修委員会

Q3. コロナ禍での本年度、委員会開催回数は減りましたか。

A3. (変わらない) 総合研究委員会、消費者問題対策委員会、
研修委員会

(増えた) 法教育推進委員会、広報委員会

Q4. w e b会議の場合、会議時間はどれくらいですか。

A4. (30分～1時間半) 総合研究委員会、

(1時間半) 消費者問題対策委員会、

(1時間半～2時間) 広報委員会、

(2時間) 法教育推進委員会、研修委員会

Q5. 上記 Q4 の時間は集合形式の会議と比べてどうですか。

A5. (変わらない) 総合研究委員会、法教育推進委員会、
消費者問題対策委員会、
(減った) 広報委員会、研修委員会

Q6. w e b 会議による委員会開催のメリットはありますか。

A6. (気軽に会議が開けるようになった。) 総合研究委員会、
(移動時間短縮) 法教育推進委員会、
(遠方の会員について、負担が少なくなること) 消費者問題対策委員会、
(気軽に開催できる、移動時間を考えなくていい、資料をパソコン上で画面共有できる。) 広報委員会、
(移動時間が短縮できるため、委員の負担軽減になり、離島の会員にも委員会にオブザーバー参加していただき、意見を聞くことができたことは、w e b 会議を行う意義がありました。) 研修委員会

Q7. w e b 会議による委員会開催のデメリットはありますか。

A7. (相手の反応が判り難いです。) 総合研究委員会、
(声が聞きとりづらい場合がある。) 法教育推進委員会、
(会議独特のその場の雰囲気が感じられないこと) 消費者問題対策委員会、
(コミュニケーションが取りづらい、声が小さくて聞き取りにくい、接続状況によっては通信が途切れる、無料会員は30分ごとにログインし直す必要がある。) 広報委員会、
(当初は、マイクやカメラなどの機材トラブルで会議に参加が困難な場合があります。あと、発言の仕方についても集合形式にくらべ違和感があり、長時間の会議を行うことは困難でした。) 研修委員会

Q8. w e b 会議の際に気を付けていることはありますか。

A8. (自分ばかりが話すことにならないように、名指しで意見を問うようにすること) 総合研究委員会、
(特にありません。) 法教育推進委員会、
(特になし) 消費者問題対策委員会、
(全員の意見を確認するため、名指しで発言を求めるようにする、ダラダラ長くならないように時間配分に気を付けている。) 広報委員会、
(会議時間が長くないよう、できる限り簡潔に会議を行い、発言者が話し終わってから発言をするなど円滑な会議になるようにしたいと考えています。今年度は、集合研修についても、

急遽w e b方式で開催する形となり、会員の皆さまにはご不便をおかけしておりますので、委員一同できる限り円滑な研修を行えるよう日々、検討しております。まだまだ通常の状態とまではいきませんが、ご協力の程、宜しくお願い致します。) 研修委員会

全ての委員会がw e b会議方式でZ oomを利用して委員会を開催していることがわかりました。会議回数は増え、会議時間は減っている委員会が多いようです。コロナ禍で急遽w e b会議を行うことになった委員会がほとんどではないでしょうか。メリット・デメリットがありますが、今後はIT化の世の中の流れもあり、ますますw e b会議の利用が重要になりそうです。

ご協力いただいた各委員長、この場をお借りしてお礼申し上げます。